第１回応用昆虫学分科会シンポジウムにおける第３部のパネルディスカッションの概要

日本学術会議 生産農学委員会 応用昆虫分科会
第１回公開シンポジウム事務局

第３部では、「わが国の昆虫学発展のために何をなすべきか？：昆虫学関連学協会間の連携強化策としての『日本昆虫学連合（仮称)』の設立」と題して、パネルディスカッションを行った。パネラーとしては、学術会議協力学術研究団体として登録されている昆虫学関連学協会の代表者 8 名（日本昆虫学会、日本応用動物昆虫学会、日本蚕糸学会、日本衛生動物学会、日本環境動物昆虫学会、日本鱗翅学会、日本農芸化学会、日本農薬学会）と京都大学で展開されている２１世紀 COE プログラム（昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生）の代表者の合計９名であった。

まず、本パネルディスカッションの主題である昆虫学関連学協会の緩い連合組織である『日本昆虫学連合（仮称)』の設立の是非について、パネラーの９名の方から意見を表明していただいた結果、『日本昆虫学連合（仮称)』の設立に概ね賛成であるとの意見集約に至ったが、今後の具体的な組織化やミッションについてはさらなる検討が必要であるとの認識で一致した。

フロアーの５名の方から、１）若い人を集め、育てる場としての機能を付加する必要がある、２）昆虫分野の研究者をより広く結集するためには、昆虫学連合よりは、昆虫科学連合の方が好ましい、３）昆虫学分野以外の特に文化系の人に働きかける視点が必要である、４）連合のミッションを明確にする必要がある、５）学会の公共的役割および科学の立場での提言や情報発信機能の強化のために、連合組織が必要である　等の意見の表明があった。

これらのことを踏まえて、今後、応用昆虫学分科会において、『日本昆虫学連合（仮称)』の具体案について検討することとなった。